

# 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会通信

Vol. 5

平成 29 年 5 月 2 日

発行／編集 武蔵野市健康福祉部地域支援課

## 平成 28 年度第 3 回在宅医療・介護連携推進協議会

平成 29 年 3 月 8 日(水)に平成 28 年度第 3 回協議会を開催しました。

28 年度の事業活動報告を行ったほか、29 年度の事業計画等について、全体で協議しました。

### 1 平成 29 年度在宅医療・介護連携推進事業について

平成 27 年度に介護保険法の地域支援事業に位置づけられた「在宅医療・介護連携推進事業」は 29 年度には 3 年目を迎えます。国は事業の実施にあたり（ア）から（ク）の 8 事業を定め、全市区町村が平成 30 年 4 月までに、8 事業すべてを実施することと定めています。

武蔵野市においては、27 年度から 8 事業全てに取り組んできましたが、29 年度は、8 事業を相互に関連づけて一体的に取り組んでいきたいと考えています。

また、29 年度は健康福祉総合計画（地域福祉計画、高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画、障害者計画・第 5 期障害者福祉計画、健康推進計画・食育計画）を策定します。「在宅医療・介護連携」は上記 4 計画に共通する課題であると考えます。

29 年度は、引き続き 8 事業に取り組むとともに、在宅医療と介護連携に関する課題とその解決策を次期計画に反映できるよう協議していきます。

### 2 認知症連携（「認知症連携部会」の設置）

認知症連携に関しては、当初「三鷹武蔵野認知症連携を考える会」を中心として連携を進めてきましたが、今後、自治体ごとに体制整備、施策展開することとなったため、協議会に「認知症連携部会」を設置します。[8 事業の(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進]

- ・ 認知症高齢者のための在宅医療・介護連携体制の構築・推進に関する事項
- ・ 認知症初期収集支援チームやもの忘れ祖横断シートの活用等に関する事
- ・ 認知症高齢者の在宅生活支援のために必要なサービスや普及啓発に関する事

### 3 摂食・嚥下をテーマとした研修等の実施

摂食・嚥下機能障害をテーマに、研修等を行い、多職種連携を推進します。



## 講演会「いつまでも住み慣れた地域で暮らす」

～暮らしを支える医療と介護の連携～ を開催しました。

平成 29 年 2 月 4 日(土)、武蔵野スイングホールにて、武蔵野市在宅医療・介護連携推進事業講演会「いつまでも住み慣れた地域で暮らす」～暮らしを支える医療と介護の連携～ を開催し、173 名の市民、医療・介護関係者のご参加がありました。

今回の講演会は、在宅医療・介護連携推進事業（8 事業）の中の「(カ) 医療・介護関係者の研修」と「(キ) 地域住民への普及啓発」の 2 事業に位置づけて実施しました。



▲講演中の渡辺 滋氏

高齢化の進展に伴い、疾病構造が変化している中、従来の「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められる中、サービスの受け手である市民がその内容を理解し、適切な医療・介護サービスを選択できることが、ますます重要になってきます。

今回の講演会は、在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」）が実施する市民向け講演会として初めての開催でした。地域包括ケアシステム（武蔵野市においては、「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」と説明しています）の中で、医療と介護は重要な役割を担っています。今後もテーマや内容等を協議会で検討し、市民を対象とした普及啓発事業を計画します。

### 講演者の皆様



▲齋藤恭子氏



▲田原順雄氏



▲石井いほり氏



▲平山貴之氏

### プログラム

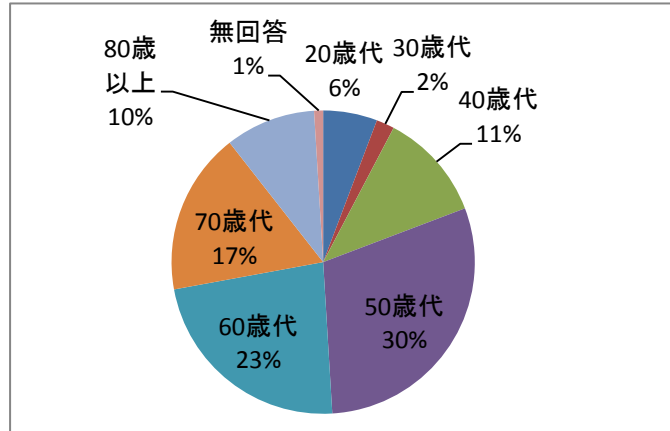
- ◆「病院から暮らしの場へ」～自宅での生活を見据えた退院支援～  
齋藤 恭子 氏 （武蔵野赤十字病院医療連携副センター長・看護師長）
- ◆「暮らしを支える医療」～かかりつけ医と上手につきあう～  
渡辺 滋 氏 （武蔵野市医師会会長）
- ◆「暮らしを支える介護」～介護職の役割～  
平山 貴之 氏 （武蔵野市訪問介護事業者連絡会議会長）
- ◆ 武蔵野市における在宅医療・介護連携  
田原 順雄 氏 （武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会会長  
武蔵野市医師会副会長）  
石井 いほり氏 （武蔵野市医師会 在宅医療介護連携支援室）  
勝又 玲子 （武蔵野市健康福祉部地域支援課）

参加人数 173 名（一般参加者：143 名 登壇者、事務局他関係者：30 名）

講演会「いつまでも住み慣れた地域で暮らす」～暮らしを支える医療と介護の連携～  
アンケート結果 アンケート回収数：104 （回収率 60.1%）

1 参加者の年齢

年齢	人	%
20歳未満	0	0.0%
20歳台	6	5.8%
30歳台	2	1.9%
40歳台	12	11.5%
50歳代	31	29.8%
60歳代	24	23.1%
70歳代	18	17.3%
80歳以上	10	9.6%
無回答	1	1.0%
合計	104	100.0%



2 本日のお話について

2-1 医療と介護連携について理解できましたか。

	人	%
理解できた	95	91%
理解できなかった	2	2%
無回答	7	7%
合計	104	100%

2-2 本日のお話は役に立ちましたか。

	人	%
役に立った	84	81%
ふつう	14	13%
役に立たなかった	0	0%
無回答	6	6%
合計	104	100%

3 医療と介護連携について聞きたいこと、知りたいこと（自由記載）

- ・在宅の先生がどこにいるのか知りたいが、知る手段がない。何かリーフレットなど作ってほしい。
- ・医師会に所属していない診療所は、連携が取りにくいのではと感じる。
- ・多職種連携について、現場とのギャップを感じる。実際、多忙の医師と介護現場は離れている。
- ・医師会が積極的に連携について動こうと（動いている）している事により明るい（在宅など）希望が見えてくるが、実際に当事者となった時に、果たして今回の話のように進むかは不安がある。
- ・専門用語が散見して難しかった。
- ・多くの方の講演が聞けるためになった。住み慣れた地域で過ごすことは、大事なテーマであると考えます。
- ・わかりやすい講演だったので、多くの市民に聞いていただきたい。この人数ではもったいない。
- ・入院時の情報提供を重視しない医療機関があるように感じている。連携が難しい例もある。
- ・「住み慣れた自宅で最後まで全うしたい」と希望したご家族への取り組みについて、最近、聞き、納得できた。各家庭のニーズは異なるが相談したいと思う。医師会の協力なしではできない連携システムだと感じた。
- ・これまで以上に連携が必要だと感じている。病院から「追い出される」と思われないう、市民への情報提供を日々行っていく事は大切だと思う。市民への情報提供は不足していると思う。
- ・きめ細かな介護を進めるための法案に少しほころびがあるように感じる。2025年問題に向けて、若者が安心して働ける賃金並びに子育て環境を作るようにしてほしい。
- ・合同研修に一般ケアマネが参加できる機会を多く作ってほしい。
- ・インターネット等を使ってリアルタイムで情報の共有はできると思うので、医師会に支援室がある必要はあまり理解できなかった。
- ・ICTを利用することで、情報漏えいなど、例えばハッキングされた場合はどうするのか。100%安全ではない。そう感じる中高年は多いかもしれない。若い人は抵抗を感じないかもしれないが…。
- ・多くの方が亡くなる時代に、グリーンケアが必要になるのではないかと。市のどこかの部署で取り組んでほしい。
- ・今回の講演会等、市の取り組みについて、聞くことのできる場を定期的に設けてほしい。
- ・他市区関係者や大学関係者等の話が聞きたい。



